

実は恩納村内にも化石があるんです。

恩納小学校の西側一帯には琉球石灰岩の海岸が広がっています。この琉球石灰岩を掘り込んで造られた古いお墓跡が残されていますが、この海岸に点在する岩などをよく観察してみると、化石を見つけることができます。

特に特徴的なのは海岸のすぐ近くにある小島です。『恩納村誌』(2014)でも紹介されていますが、お墓が造られている反対側に回ると、高さ6mほどの崖があります。この崖の下部には厚さ1mのオパキュリナ密集層、その上位には2m10cmほどのオパキュリナ、二枚貝、ウニの棘などの化石をたくさん含む層があり、さらにその上に厚さ70cmのイタヤガイ(二枚貝の仲間)の密集層があります。オパキュリナとは有孔虫の仲間で、主に石灰質の殻を持った海底に住む微小な生物です。石灰質の殻は、化石として残りやすく、現在の海岸の砂や地層で見られることがあります。沖縄のお土産で有名な「星砂」も有孔虫の仲間です。大型有孔虫のオパキュリナの仲間は暖かく浅い海に住んでいたことから、発見地の古代環境を知ることのできる示相化石(しそうかせき)として、学術的にも貴重とされています。また、この海岸一帯に点在している岩などを観察すると、その中にもオパキュリナ化石や二枚貝の化石などを見つけることができます。中には手のひらより大きいシャコガイの化石もあります。

この一帯は小学校6年生の理科の学習の一環でフィールドワークを行う際、村内の化石スポットとして観察に利用したりしていますが、台風による風や波の浸食などの風化作用で小島の崖は徐々に崩落してきています。すぐに堆積の状況が見られなくなってしまうということはないと思いますが、貴重な場所なので、ぜひ一度、観察に行かれることをおすすめします。行かれる際は安全に十分にお気をつけください。

【参考文献】神谷厚昭、宮城宏之 2014「恩納村の地形と地質」『恩納村誌』第1巻自然編, pp.21-60.



化石の層を含む崖



オパキュリナ化石の密集



フィールドワークで化石を観察する児童

恩納村博物館企画展「恩納村のサンゴ保全活動」を開催します。

村では2018年に「サンゴの村宣言」を行いました。サンゴとサンゴ礁は、漁業や観光業の重要な資源であり、本村の大切な宝です。村民一人ひとりの自然環境に対する意識の向上を図り、本村の豊かな自然環境の保全と育成を行うための「サンゴの村宣言」プロジェクトに取り組んでいます。今回の展示会ではこうしたサンゴやサンゴ礁の保全に取り組む村や関係団体の活動などを紹介する展示会を開催します。

開催期間 3月1日(金)～31日(日)

休館日 3月4、11、18、21、25日

開館時間 午前9時～午後5時

観覧料 無料

場所 恩納村博物館 2階企画展示室

お問い合わせ:恩納村博物館 ☎982-5112